

国家試験実施まで、もう少しという時期になりました。今までに3回ほど連載してきたことが役に立てたでしょうか。今回は最後のアドバイスになります。もう遅いやなんて言わずに最後までお付き合い下さい。

最後の助言 噂に惑わされるな

さて、今年は何が出るか！ということが皆さん一番知りたいことだと思う。実は、出題される内容というのは、ほとんど毎年類似しているのだ。というのも、国家試験には出題基準というものがあるため、そこから逸脱して出題されることが全くないわけではないが、そのような問題は非常に少ない。さらに、今までに出題されていない新しい事項がちょっと加わるだけなのである。

そのちょっとだけ出題された新しい問題の印象が大きく残るため、『今年はずっと傾向が違う！』『見たことない問題が出た！！』など、大袈裟な反応が見られるのも通例となっている。

落ち着いて振り返ってみれば、『な～んだ、大したことはなかった！』『これ、解ける問題じゃん！』と感じる。

確かに新傾向の問題は出題される。だが、その新傾向の問題が解けなかったために、不合格となった者などいるのだろうか？

その答えは“NO！”である。

全く出題されたことのない新傾向の問題が全体の何割を占めるか？これは1割にも満たないはずだし、不合格となった者の単なる言い訳に過ぎない。

不合格になった者の言い訳で良く耳にするのは、「今年の有機化学は難しくできなかったから落ちた」など、言い訳も局在化している。受験は皆が同じ条件であり、その一部だけで合格が決まるわけではない！

誰しもが簡単に得点できる問題を、自分も全て得点できていれば落ちることはない

はずなのだ。逆に言えば、落ちる者はその得点すべき問題（正答率の高い問題）を種々の科目で取りこぼしているのである。落ちた学

生の話聞きながら分析していくと、最終的に同じ結果にたどり着く。自分にも他人にも言い訳をしているだけなのだ。そのようにならないためにすべきことは何だろうか。

どんな科目であっても必ず得点率の高い問題が存在する。その問題をGetするには勉強範囲にムラがあってはならない。

では、ムラを作らないようにするにはどうしたら良いのだろうか？

1. 基本を抑える。
2. 平均的に得点率が高い科目（分野）は自分の得意分野にする。

基本を抑えるということは、過去問題を制覇することと同じ。だが、問題を見た直後に答えが出せれば“バッチリ”ということではない。誤文ならば正文に直せる（＝理解している）ということが重要である。これができれば、出題の視点を変えられていても対応できる。正答率の平均が高い科目は、必ず自分も点を確認しなければならない。

ではどんな科目が得点しやすいのであろうか？

以前から得点しやすい科目として代表されるのが、衛生薬学と薬事関係法規・制度である。ただし、薬事関係法規・制度については法改正があったために、過去問題が通用しない部分もある。対策として、現役生は演習試験や卒業試験あるいは模擬試験を、既卒生なら模擬試験などを十分に見て傾向を知っておく必要がある。ということは、衛生薬学が今年のkeyとなる科目だ。

それらのほかにも得点しやすい科目は、ま

だ存在する。意外に盲点になる科目は、医療薬学の製剤学である。また、基礎薬学の有機化学ではなく、構造解析法なども内容があまり変わらないため得点しやすい。当然、基礎薬学では生物系全般で得点を稼ぐのが賢明である。

これらの範囲は比較的暗記でカバーもできる。しかし、直前だけで対応するのは困難な量である。確実に得点して点を稼ぎたいのであれば、コツコツと知識を積み上げてほしい。

衛生薬学というのは、幅広くかつ身近にある常識的な物事を、専門的に知っていなければならない科目である。例えば、単に水についても、飲める水（上水）と使った水（下水）と大きく二つに分かれる。飲める水（上水）は飲んでも病気にならない安全な水を作るために、厚生労働省が基準を設けている。使った水（下水）は汚れた水のため、そのまま河川や海に流せば環境汚染につながる。環境汚染を防ぐために、環境省が排水基準や環境基準を設けている。このように身近なことを専門的に発展させて、その目的を知ることが重要なのである。

最後に医療薬学の中では薬理学。2日目午前の60題に占める割合5割と非常に多い。

また、昨年度も過去問題のモディファイがほとんどだった。前述したように、過去問題をモノにしていれば、美味しい科目であろう。ここで全問得点できれば大きい。さらにこの科目を網羅していれば、薬物治療学においても科目の壁がなくなっているのが有効である。今回が4回目、そして今年度最後のアドバイスになるが、過去のアドバイスをもう一度読み直していただくと幸いです。皆の幸運を心から祈っている。

そして、最後のアドバイス。国家試験直前の噂に惑わされることのないように。今までのアドバイスを読んでいけば、そんなことは意味のないことと賢い君たちなら理解できるであろう。薬にも縋る気持ちも分かるが、不確実な情報に右往左往して、貴重な時間を費やすのは非効率だ。何度も言うが、時間は限られている。ぜひ有効に使って、新しい社会人としての一步を踏み出してほしい。

最後まで諦めずに頑張れ！もがけ！

国試名人のアドバイス



クラフトで何ができるのか、そして自分は何がしたいのか



わたしたちと一緒に 見つけましょう、進むべき道を。

全従業員中、薬剤師は80%を占めています。当然のことながら現在どんなに責任ある立場にいて、大勢の部下がいる人でも、平等に「駆け出し」の頃がありました。薬剤師として社会に出て、薬剤師として働く。誰でもスタートはあまり変わりません。しかしその後さまざまな経験や知識を習得して、ある人は調剤の現場で薬剤師としての経験を重ね、さらに深い知識を追求している。また別の人は調剤の現場を離れ、会社の経営に携わり新たな自分の可能性を広げている。というように決してひとつのレールを全員が同じように歩いているわけではありません。その背景にはクラフトという大きな企業だからこそ持ち得る選択肢の多さがあります。

クラフトは「薬剤師として」ということだけが、患者に対する貢献と考えているわけではありません。自分が薬剤師として今何ができるのかを考えることはもちろん、将来自分が何をしたいのかが大切です。調剤、コミュニケーション、将来の自分。そのどれにでも共通するのは分析することの重要性。クラフトにはそれらをバックアップできる体制と数多くの選択肢があります。

さあ、一緒に見つけましょう。あなたの新しい目標と進むべき道を。

クラフト株式会社 〒102-8478 東京都千代田区麹町5-1 NK真和ビル6F
TEL.03-3265-8032 FAX.03-3222-5228 人事部採用担当 亀屋、松井
URL : <http://www.kraft-net.co.jp> e-mail : jinjji@kraft-net.co.jp